

## 第 3 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成31年2月6日(金) 5校時  
生徒数 15名  
授業者 教諭 川口 正幸

1 主題名 良心に従った行動 「内容項目 A-1 自主, 自律, 自由と責任」

2 資料名 「裏庭のできごと」(文部省資料作成協力者会議編)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年7月)解説―道徳編―」第2章・第2節・A-1 自主、自律、自由と責任「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」

をもとに設定したものである。本主題である「良心に従った行動」が自律の精神を重んじることにつながり、同時に自分や社会に対して誠実に行動することになる。また、そのことが自分に対して、社会に対して責任をもつことにもつながる。そのようなことから、自己の尊厳に気づき、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれるようにすることが大切である。そのためには、悪を悪としてはっきりとらえ、それを毅然として退ける良心の大切さに気づくようにしなければならない。

しかしながら、心身ともに中途な発達段階にある中学生は、自由をはき違えて奔放な生活を送ったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、自分自身に関わる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということを深く考えることができない面もある。そのような中学生期にこそ、自由を放縦と誤解してはならず、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、自分の良心に従った責任ある行動がとれるような心情を育てていきたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、落ち着きがあり、特に各教科の学習では、自ら課題を見つけ黙々と学習を行うなど「学び」の姿勢は定着しつつある。ただ、自分の意見をみんなへ理解してもらおうと発表や発言を積極的に行う生徒は少なく、そのことからお互いの誤解による人間関係作りがうまくいかない生徒も少なからずいる。

そして、校内でのきまりや学級での取り決めなどに関して、どういった行動をとればいいのかは分かっているが、周囲の状況や友人の意見などに流され、結果的に正しいとはいえない行動をする生徒も見受けられる。例えば、日頃の掃除態度について「しなければいけない」と分かっているが実践に結びついていない。また、周囲を気にするあまり、積極的に仕事や各種委員を引き受けて活動していこうとする姿勢も乏しい。先日行った Q-U アンケートにおいては、2名、17%ではあるが「学級生活不満足群」の生徒がおり、学校生活意欲総合点は、全国平均とほぼ同じである。侵害行為認知得点や非承認得点は低いので、学習「意欲」や生活「意欲」を向上させるための手立てが必要である。

こういった行動は、自分を律することができずに、周囲の思惑を気にするあまり、自主的な行動がとれなかったり、中学生として、あるいは社会の一員としての責任を自覚していなかったりする結果でもある。

本時及び事後指導を通して、自主的に物事を考え、自分が集団の一員としての責任をもち、どういった行動が適切なのかを考えさせたい。

(3) 資料及び指導の方策

「裏庭のできごと」は、三人の生徒が窓ガラスを割り、それぞれ三人とも違った行動を起こす。雄一は、すぐに先生へ報告に行き、大輔は何も悪くないような行動をとり、健二は友人関係と自分の良心との間で葛藤しているが、結果的には先生へ正直に申し出る。この三者三様の考えや行動を、自分のこととして捉えることができれば、本主題のねらいに近づくことができる資料である。

そのために、導入段階では、生徒の具体的な生活場面において、「こうすべきだ」と分かっているができていない事象を取り上げることで、生徒自身の内面や行動を振り返らせ、主題に結びつけられるようにしたい。展開前半では、この三者三様の考えや行動それぞれを、生徒自身が共感できることで、さらに自分であったならば、どのように考え、行動するかを想起させ、自身の内面を探らせたい。そして展開後半では、「なぜできな

いのか」を考える時間を設定し、何が正しく、何が誤りなのかを自ら判断すること、そして望ましい行動に移していくことの難しさを感じさせたい。自分の考えや意思をはっきりと表示させるためにもワークシートへの記入を通して、自身のこととして考えさせたい。終末では、生徒それぞれの意見や考えを尊重させながらも、自分の良心に従った行動を大切にしなければいけないことに気づかせたい。

#### 4 本時の学習活動

##### (1) ねらい

三者三様の心情に共感しながらも、悪を悪としてはっきりとらえ、自分の良心に従った責任ある行動がとれるような心情を育てる。

##### (2) 研究の視点

- ねらいと評価の一体化がなされた指導ができるか。
- 生徒が主体的に課題解決に取り組む発問がなされているか。
- 効果的な言語活動が仕組まれているか。

##### (3) 展開

過程	時間	生徒の学習活動	教師の発問・援助 予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	10	1 「言い訳」についてのアンケートの結果を見て本時の学習課題を発見する。	<b>【発問】</b> 「なぜ言い訳をすることがあるのだろうか」 ・自分が悪くないことを証明したい。 ・友人、時間、お金など、できない理由を探している。	アンケート 「掃除道具を壊してしまった時の言い訳を考えてみよう」 ○自分の失敗を認めたくない自分がいることに気づかせたい。
展開前段	10	2 資料の前半を読む。 (1枚目まで) 場面把握をし、三人の心情を理解する。	<b>【発問】</b> ○ガラスを割った雄一は、なぜ先生の所へ行ったのでしょうか。 ・黙っていると先生に怒られるから ・正直に言わなければならないと思ったから ○健二と大輔は、なぜ行かなかったのでしょうか。 ・直接、自分が割っていないから ・ひなを助けようとした行為だからしかたがない ○この後、健二と大輔は2枚目のガラスのことを言えると思いますか。	○登場人物一人一人の言動に注意させ、状況を理解させる。 ○雄一がとった行動と健二や大輔の行動の違いは何か考えさせる。

展開後段	10	3 資料の後半を読む (2枚目最後まで) 健二の心情を推測する。	<b>【発問】</b> ○健二の迷いや悩みは何ですか。 ・自分の良心と友人との関係で、どのようにしたらいいか悩んでいる。	○健二が2枚目のガラスのことを言えなかったことや足取りが重いまま学校に向かうことなどから、健二の迷いと悩みを理解させたい。 ○健二の葛藤を理解させながら、正直に生きることの難しさを感じさせる。
	15	4 良心に従った行動について考える。	<b>【主発問1】</b> ○なぜ健二は一人で正直に言いに行ったのだろうか。 ・自分の良心を大切にしたい。 ・自分のなかで、悪いことを悪いこととして判断できた。  <b>【主発問2】</b> ○もし、正直に言うことができなかつたら、この後どんな気持ちだろうか。 ・ずっと心の中にモヤモヤが残っている。 ・罪悪感を抱いたまま生活しなければいけない。 ・三人の関係性が壊れてしまう。	○健二の心情を推測することで、悪を悪としてとらえ、判断することの大切さに気づかせる。 ○補助発問として「健二を職員室に向かわせたのは何だったのでしょうか」  ○誠実な行動ができなかった後の心境を想像することで、良心に従って行動することの大切さに気づかせたい。
終末	5	5 本時の気づきを振り返る。	<b>【発問】</b> ○誠実に行動することは大切だと思いますか？	○5段階の数直線上に表させ、その理由までの書かせることで、誠実に行動することの難しさと大切さを感じ取らせたい。 ○私たちの道徳25ページを読んで聞かせ、自律の難しさと大切さについて思いを膨らませる。

(4) 評価

三者三様の心情に共感しながら自律の難しさを感じつつも、誠実に行動することの大切さに気づくことができたか

道徳ワークシート

年 氏名 \_\_\_\_\_

1 なぜ、健二は一人で正直に言いに行ったのだろうか

---

---

---

---

2 もし、正直に言うことができなかつたら、この後どんな気持ちだろうか

---

---

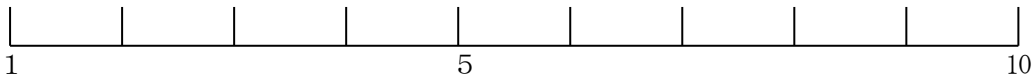
---

---

3 誠実な行動は大切ですか？

そうでもない

大切である



(理由)

---

---

---

---

